

「内灘町の今」

240904

夏休みの末に内灘町を訪ねました。幸田町と防災協定を結んでいる町であり、幸田中としても昨年度3学期には募金活動にも取り組み、多くの励ましの気持ちを届けました。そんな内灘町が、震災から8ヶ月経った今、どんな状況で、どのように暮らしてみえるのかと思い車を走らせました。

現状は、災害にあった地域は全くの手つかずのままでした。道路はでこぼこ、電信柱は傾いたまま、家も傾き、「危険宅地」「要注意」の張り紙がほとんど家の玄関に張られ、住んでいる気配はもちろんありませんでした。また、学校もそのまま、グラウンドも草だらけでした。

しかし、私が通った地区を少し抜けると、全く震災の気配を感じず、まったく普通の生活がある街並みになっていました。住宅も、お店も、病院も通常の姿で、さっきまで見た地区の姿が嘘のように、ガラッと景色が変わっていました。ただ一つ、気になったのは、そんな中でも仮設のトイレだけは、町の中にいまだに点在していたことです。上下水道がまだ完全には復旧していないのかと感じました。これまで通りの生活ができている地区と、まったく手がはいっていきなくて住むことができない地区。その両極端な状況に驚きました。

